

令和6年度

赤羽根の里だより

茅ヶ崎市立赤羽根中学校 学校便り

令和7年3月18日(火)

校長 高橋 励

Dear Student(*~*)

卒業生からのメッセージ

～第39回卒業証書授与式より～

ご参列いただいた皆様から「よい式でしたねえ」というお言葉をいただきました。卒業生の想いがそう言わしめたのでしよう。

元生徒会長の卒業生代表の言葉の一部を紹介します。特に、2年生のあなたにとっては未知の1年間をすでに駆け抜けきった、追い超えていきたい目標としての後ろ姿。最上級生としての想いを語ったメッセージをあなたに向けて届けます。

【前略】

最高学年になり、自覚と主体性に磨きをかけた三年生。修学旅行では、「一期一会」の目標通り、外国人観光客に迷わずHello!と声をかけ、積極的に交流している人が多くいました。楽しむ場面の一方で、広島の平和記念資料館では、時間が足りなくなるほど真剣に見学していた場面もあり、様々なことを学べた最高の三日間になりました。

十月、中学校最後の合唱祭。コロナの影響であまり合唱をしてこなかったせいか、中一の時には音取りにも苦労していた私たち。しかし、そこから受けてきた音楽の多様な指導と、「最後、このクラスで最高の歌を歌いたい」という私たちの思いが重なり、合唱祭当日はどのクラスも圧巻の仕上がりで

した。また、学年の全員で歌い上げた「モルダウの流れ」では、三年間の成果を存分に発揮し、観客に訴えかけるような歌を歌うことができました。

後期に入り、私達はそれぞれの道を探し始めました。さまざまな苦勞の末に、道が定まった今、こうして卒業の日を迎え、中学校生活の幕を閉じようとしています。

在校生代表の皆さん。赤中の中枢を担う覚悟はできていますか？脅すようですが、学校の中心になるが故に苦い経験をすることや、各々の行動に大きな責任が伴うことが、これから増えてくると思います。しかしこれは生徒主体の赤中だからこそわかることです。中学生でいられるのは人生でこの三年間しかありません。何にでもチャレンジでき、間違えた時はちゃんと叱ってくれる誰かがいるこの環境で、挑戦を続けてください。より良い赤羽根中学校になることを、楽しみにしています。

お母さん、お父さん。私達は今日、無事に中学校を卒業します。いや、三年間で見れば無事ではなかったかも知れないですね。この紙には書ききれないほど本当に沢山のことがあって、その度に困らせたり、嫌な気持ちにさせてしまったことも、きっとあったと思います。それでも、楽しい時は一緒に笑

ったり、嬉しい時は自分の事のように喜んでくれたりして、本当に嬉しかった。自分を絶対に受け入れてくれる人がいると、安心していられた。大人になればなるほど、こんな心地よさを感じられる機会は減って行くのだと思います。だからこそ、今は、もう少しだけ支えていて欲しいです。ひとまず、ここまでありがとうございます。改めて、これからもお世話になります。

【中略】

七年間共に過ごしたみんな。私は転校してきたから九年間一緒だったわけじゃないけど、ここまでたくさんの時間を過ごすことができ、嬉しかった。今日を最後に、中学生に戻ることはできないという事実を前にすると、寂しさや、これからの生活への不安を感じてしまいます。しかし、もう二度と会えないわけではありません。高校で会う人もいるだろうし、同窓会だって開かれるかもしれない。少なくとも私は開く気満々です。加えて、私たちは何かと臨機応変に対応することが多く、急な変化にも慣れているはずです。私はこの先も「みんななら何とかなる」と思っています。だから、別れに怯えるのではなく、それぞれの新しい場所に自分だけの正解を探しにいきませんか。その先にある交差点で、また会えることを願って。

他の中学校ではなかなか得られない体験を沢山させてくれた赤羽根中学校へ。傾斜角体感四十五度の坂、大量のスギ花粉、虫の授業参観などなど、悩まされることも多々あったけれど、その環境だからこそ、私たちは根強く育つことが出来ました。そんな赤羽根中学校が、私は、私達は、大好きです。

最後になりましたが、これからも赤中のバトンがいつまでも繋がっていくことを祈念し、答辞とさせていただきます。

令和七年三月十二日

第三十九回卒業生代表

2年生のあなたへ

365日が過ぎた来年の今頃は、あなたもこの赤羽根中学校のブレザーとお別れしているはずですね。自分の前を歩く人の言葉は、自分が目指す姿を教えてくれることがあります。1年後のあなたは、どんな思いで卒業を迎えているのでしょうか。

1年生のあなたへ

3週間後には、センパイとなったあなたの背中を追いかけながら、新入生が赤中生としての生活を始めます。在校生代表(2年生)の送る言葉からの引用です。

明日から先輩方とお会い出来ないと思うと、とても寂しく思います。ですが、私達在校生は、先輩方が創り上げてきたこの赤羽根中学校の伝統を受け継ぎ、先輩方のような、最上級生になれるように、受け継いだ赤中のバトンを磨き上げ、繋げていこうと思っています。

いうのはカンタン。でも、送る言葉は「誓い」の言葉。2年生は最上級生を引き受ける覚悟はできているようです。

令和7年度のスタートまであと3週間。もうすぐ4月がやってきます。

覚悟はできていますか？

愛されるセンパイになりたいですね♡

